

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 計画

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	・校内研究や職員研修によって教職員一人ひとりが資質の向上に努めたことが、児童の学習意欲の向上につながった。また、算数科では、CRT検査において前年度より8.5ポイントの改善が見られている。来年度も引き続き個別最適な学びと協働的な学びのある授業づくりの工夫を行うことで、さらに児童の学習意欲の向上を図りたい。 ・今年度も「心の教育」や「健康・体づくり」については、概ねアンケートでの目標を達成した。しかしながら、不登校児童や相談室対応児童、保健室来室児童など、支援を要する児童の数は増える一方である。児童や家庭への支援、SC、SSW、関係専門機関との連携をさらに密にしていくな必要を感じる。 ・来年度も特別支援教育の充実や業務改善への取組を進めていくことで、さらなる学力の向上に努めていきたい。また、複合施設の強みを生かし、地域との連携をさらに深め、コミュニティ・スクールとしての学校づくりを充実させていく。
------------------	---

2 学校教育目標	思いやりの心をもち、意欲的に学ぶ児童の育成 ～ 人にやさしく、真面目にがんばる子！ ～
----------	--

3 本年度の重点目標	①学力力の向上：やる気を引き出す指導の工夫 家庭学習の習慣化 基礎・基本の定着に向けたスキル学習等の提示、実践 家読の推進 ②豊かな心の育成：自己有用感を育む学級経営 心をゆさぶる道徳教育 仲間づくり 感動体験活動 郷土愛を育む活動 ③健やかな体の育成：体育の充実と運動の生活化 保健指導の充実と食育の推進 ④特別支援教育の充実：一人ひとりの実態の把握 集団における授業の工夫や合理的配慮
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

(1)共通評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○児童全員が主体的に参加する授業の実践	○児童アンケートで「授業が楽しい」と肯定的な回答をした児童の割合85%以上	・個別最適な学びと、協働的な学びのある授業づくりの工夫を図る。		・		・		・研究主任 ・研究副主任	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○児童アンケートで「思いやりのある行動をしようとしている」と肯定的回答をする児童の割合85%以上	・道徳科の授業づくりに関する校内研修等の実施 ・「ふれあい道徳」や平和集会、人権集会等の学校行事の充実		・		・		・道徳教育推進教員 ・人権・同和教育担当	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「いじめ防止等(防止のための取組、事案対処等)」について組織的対応ができている」と回答した教員90%以上	・心のアンケートを実施し、児童の実態把握といじめの早期発見を行う。 ・気になる児童についての情報共有を行うとともに、毎月情報交換会を実施する。 ・SC、SSW、関係専門機関との連携を図る。		・		・		・人権・同和教育担当 ・生徒指導担当 ・教育相談担当	
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれる」と回答した児童85%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童90%以上	・6年間を通して、地域ボランティアや各講師を招いて様々な体験活動を実施する。 ・各種体験活動では、児童による活動の見通しと体験した学びの振り返りを充実させる。		・		・		・教務主任	
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	○「早寝・早起き・朝ごはん」を奨励し、保護者アンケートで肯定的回答をする割合90%以上	・給食担当による講話(放送)や担任による授業を通して、望ましい生活習慣の大切さを理解させる。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」の励行を保健だよりや給食だよりで年間を通じて行う。		・		・		・給食担当 ・養護教諭 ・栄養教諭	
	○「安全に関する資質・能力の育成」	○交通事故や事件に巻き込まれることを防ぐとともに、性に関する指導の授業を発達段階に考慮して行う。	・交通安全教室や避難訓練を行い、事故防止に努め、防犯意識を高める。 ・「性に関する年間指導計画」に基づき全学年で性教育を行うとともに、講師を招いた講演会を開いて理解を深める。		・		・		・生徒指導担当 ・養護教諭	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・定時退勤日を設定する。 ・管理職または職員による業務改善を進め、全職員の意識改革を図る。		・		・		・教頭 ・業務改善委員会	
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○児童の実態を把握し、一人ひとりに応じた対応を行ったと回答する教員90%以上	・特別支援教育に関する校内研修等の実施 ・ケース会議の開催、関係者間での情報共有を密に行う。 ・関係専門機関との連携を図る。		・		・		・特別支援コーディネーター	

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○教職員の資質向上	○教職員の授業力向上	○児童アンケートで「授業が楽しい」と肯定的回答をする割合を85%以上、保護者アンケートで「学校は子ども達の学力向上に取り組んでいる」と肯定的回答をする割合を90%以上	・職員同士が切磋琢磨できる環境づくりとして、相互授業参観ができるシステムを設定する。 ・学年やグループ間の連携を図り、授業づくりについて日ごろから相談しやすい環境をつくる。	・		・		・	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任	
○開かれた学校づくり コミュニティ・スクール	○地域と連携した体験活動の推進 ○積極的な情報発信	○地域の人材を活用した体験活動を通して、地域との連携を深める。 ○保護者アンケートで肯定的な回答をする保護者90%以上	・コミュニティセンターや地域学校協働活動推進員と連携し、体験活動の充実を図る。 ・学校だよりや懇談会等を活用し、学校の取組について知らせる機会を設ける。	・		・		・	・教頭 ・教務主任	

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志と誇りを高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・
--------------------	-------------